

○新潟地域若者サポートステーションの活動状況について

【平成 25 年度サポートステーション事業実績】

1. 相談支援事業(進路決定者数 サポステ全国160個所中13位:4月~12月)

1) 支援プログラムの充実

- ①個別相談 ②コミュニケーションセミナー ③職業講話 ④職場見学 ⑤キャリアセミナー
⑥グループカウンセリング ⑦ボランティア活動 (⑧ジョブトレ準備講座 ⑨ジョブトレ)

(※支援実績並びにセミナー実績:別紙参照)

2) 相談事業の特徴

①精度の高い見立てと支援プログラムの作成

初回面談はインターカーと呼ぶ支援員が行い、対人・就労スキルや疾患・障害の疑い等を配慮し担当者を選定。インターカーと担当者の見立てを複合して支援の方向性を決め、利用者と共に進路決定に向けた「支援プログラム」を作成しています。

②困難事例の対応

ケース検討会議を月2回実施し、スタッフ全員で利用計画を再検討。また、福祉就労等が適切な場合は、他機関とのマッチングを図りました。

3) サテライト相談

- ①ヤングジョブしばたと新発田サテライト
②聖籠サテライト

4) 臨床心理士の配置

サポステに相談に来られる方の中には、ご自身の特性に気付いてない方々がおられます。就労に向けての相談支援をより効率化させるためには、早期にその方々に対しての見立てを行い、よりの確な機関へ誘導する必要があり臨床心理士を配置させていただいております。また、グループカウンセリングを実施しながら、就労感の醸成と個々の課題整理につとめております。

(※事例報告:別紙参照)

2. 学校連携推進事業

学校連携事業としては、様々な悩みを抱えた生徒やその対応に苦慮する学校関係者と連携をとりながら支援を深めて参りました。課題は低学力に始まり特性・障害や生活困窮、そして不登校から中退へと幅広く、その支援は引きこもりやニートの状態に陥ることを未然に防ぐ意味でも、重要な位置を占めております。

具体的な内容としては、新潟市若者支援センター「オール」・新潟市ひきこもり支援センター「ひきセン」そしてサポステの3機関が結びつき、高校中退予防や中退者の無業化・ひきこもり化を防ぐ目的で、「にいがた若者自立応援ネット」を結成。ネットでは、新潟市立明鏡高校をモデル校と位置づけ、校内フリー相談室を立ち上げ、教員・保護者・生徒との面談を実施しており、その相談支援員としてサポステより「臨床心理士」も連携に加わっております。即ち各機関の専門分野を活用しながら、学校不適応時の対応を教員・保護者・スクールカウンセラーと共に考え、そして進路未決定者のサポステ誘導を図るという層の厚い支援をおこなっております。

さらにネットでは、当校のPTA保護者対象に、オール・ひきセン・サポステに加えハローワーク若者しごと館・ジョブカフェと、若年者支援機関を巡る見学会を開催し、学校と厚い信頼関係を築きながら新潟市の若者支援体制の礎として活性化を図っております。

《学校連携実績（平成 26 年 2 月末日）》

個別面談のべ人数	63 名	
対象実人数	21 名	内訳：定時制 10 名 全日制 7 名 専門学校 2 名 大学 1 名 その他 1 名 (上の他、約 30 名：明鏡高校校内フリー相談室での相談者)
就労決定者	5 名	
中退者把握	2 名	
連携校 (連携 3 レベル)	9 校	内訳：定時制 2 校（新潟県立翠江高校 新潟市立明鏡高校） 全日制 2 校（新潟県立豊栄高校 私立敬和学園高校） 専門学校 1 校（新潟情報専門学校） 大学 2 校（新潟大学 敬和学園大学） その他 2 校（開志学園高校 中央学院）

加えて毎週火曜金曜の 2 回、就労に際し最低限必要な読み書きそろばんを修得する「学び直し支援（ぷらっと home）」を開催。登録時に本人に目標を設定してもらい、何らかの理由で今まで勉強でつまずき、今日まで自信がなく、今後働くために必要であるという本人の意志が明確化している利用者を対象とし、希望によっては高卒認定試験に挑戦する者へのサポートも実施。またさらに今年度は就労に必要となる PC 技術の講習会（全 11 回）も行っております。

現在の学び直し生 37 名 内高卒認定試験受験者 2 名（1 名が全合格 1 名が科目合格）
PC 講習受講者 7 名

3. ジョブトレサポーター配置事業

1) ジョブトレニングの実施

ジョブトレニング(ジョブトレ)の概要は以下の通りです。担当相談員と相談を重ね各種セミナーに参加して、心身共に就労の自信がついた登録者に対し、協力事業所で週 1 回から 3 回、2 時間程度の就労訓練を 3 か月間継続して体験してもらい、実践(実戦)的な自信をつけた上でハローワークでの就職活動に臨むという業務です。ジョブトレサポーターはジョブトレ候補生、担当相談員と 3 者で話し合いの場を持ち、ジョブトレ候補生の居住地、主に身に着きたいスキルを聴取しつつ、各協力事業所の住所、事業内容、経営方針などの情報提供をして具体的なジョブトレ先を決めます。その後、ジョブトレ先への見学、初回同行、不定期の訪問見守りを行い、ジョブトレ終了時にジョブトレ実施者、協力事業所担当者、ジョブトレサポーターの 3 者で反省会を行い、その結果を担当相談員に引き継ぎます。ジョブトレ期間中にジョブトレ実施者、及び協力事業所からのジョブトレ内容やジョブトレ態度などに対する要望等に対する連絡調整も重要な業務となります。

3 年前より緊急雇用創出事業により、ジョブトレサポーター配置事業を実施しておりますが、事業の特性上で毎年ジョブトレサポーターが変わり、上述のスタイルが正確かつ適切に引き継がれているとは言い難い現状でした。そこで今年度は上述の言わば「新潟方式」とも呼べるスタイルを詳細にマニュアル化し、明文化しました。この作業によって、二人のジョブトレサポーターの業務が完全に一致し、またジョブトレ実施者や協力企業との連絡調整もスムーズに進めることができました。

今年度は 2 月末時点で実人数 61 名、延べ回数 774 回のジョブトレを行っております。

2) ジョブトレ前セミナーの実施

ジョブトレに臨む登録者は就労経験の全くない者も多く、いわゆるビジネスマナーが不十分であり、そもそも就労そのものに不安感が強いという現実があります。挨拶などの基本的なビジネスマナーを学習し、不安感を取り除くためにジョブトレ経験者の経験談を聞いてもらうなどの内容のセミナーに参加してもらい、円滑なジョブトレとなるように努めています。

3) 新規ジョブトレ先の開拓

新潟サポステには新潟市全8区に登録者がおります。新潟駅直近というサポステの利便性からサポステに来所することはさほど困難でなくとも、市内に散らばる協力事業所へ出向いてジョブトレを行うには公的交通機関が必要です。居住地から協力事業所への”通勤”が困難で残念ながら希望通りのジョブトレ先を選べないという例が多く、新規ジョブトレ先の開拓は大きな課題です。今年度は大手レンタルショップチェーン店、清掃業(複数)、児童館、県立生涯学習センター等に新たにジョブトレ先として加わっていただきました。

今現在、新規ジョブトレ先を含め、20か所程度の協力事業所のお世話になっています。

4) 新潟地域就労体験受入企業連絡会の開催

上述の協力事業所の担当者と関係機関にお集まり頂き、連絡会を4回開催致しました。連絡会ではジョブトレサポーターからジョブトレの実態をお話し、出席者からはより良いジョブトレにするための建設的なご意見を頂くことができました。

5) ジョブトレ in NIIGATA の開催

3月7日(金)午後2時~午後5時まで、総合福祉会館で協力企業の皆様とジョブトレ生との交流会を開催しました。これからジョブトレを行う登録者や関係機関を含め、参加者は70名近くに及び、ジョブトレの意義や様子がよくわかったと概ね好ましい評価を頂きました。

【平成26年度サポートステーション事業計画】

1. 全体

新潟県内では平成25年度からサポートステーション数が3か所から5か所に増設されましたが、平成26年度に5つのサポートステーションのエリアの再編があり、下越地区では新潟サポステは新潟市のみとなり、これまでの村上サポステが新発田市に拠点を移し、下越サポステとして新潟市と佐渡市を除く下越全般を対象範囲とすることとなりました。三条サポステと長岡サポステでも、柏崎市や魚沼地域が三条から長岡に移り、これまで偏りのあったエリアが人口規模や利用者の利便性を考慮し、県内の地域格差によるサービスの不均衡を除くこととなりました。

2. 相談支援事業

新潟サポステの支援対象が新潟市のみとなったことを受けて、遠隔地での出張相談を開始予定です。ハローワークと連携し、より高い就労率を目指すため、ハローワーク巻とハローワーク新津での出張相談を予定しています。

また、平成25年度より実施しておりますサポステ内での「新潟市発達障がい支援センターJOIN」の出張相談も継続予定です。

3. 学校連携推進事業

新潟市若者支援協議会による「にいがた若者自立応援ネット」において、相談教育、医療、福祉、行政の関係機関と連携し、就労支援機関としての役割を果たします。

4. 支援プログラム事業(セミナー、シンポジウム等)

これまでアイデンティティを確立するまで安心して過ごす場所として「居場所」を運営してきましたが、「にいがた若者自立応援ネット」の連携で新潟市ひきこもり支援相談センターや新潟市若者支援センターオールでの事業ヘリファーし、キャリアセミナーや職業人講話、職場見学等の内容も見直し、より一層就労支援の取り組みを強化します。

5. ジョブトレサポーター配置事業

1) ジョブトレの意義の見直し

これまではハローワークで就職活動をする直前の職業訓練と位置付けて実施してまいりましたが、登録者の実態を見ますと、ひきこもりからやっと抜け出しつつあり、生活リズムが未だ十分でない者、人との応接が苦手な就職しても対人関係が築けずすぐにやめてしまう者などが多数サポステに登録されております。そこで、ジョブトレを就職直前の職業訓練としてのみとらえずに、例えば農業ジョブトレに生活リズム改善の意味づけをしたり、店舗ジョブトレではコミュニケーションスキル向上を主な目的にするなど、ジョブトレを単なる出口戦略のみではなく生活改善やセミナーの延長の機能を持たせることにより、座学のセミナーや自助努力のみでは難しい生活改善に大きな効果があると考えます。

2) 更なる新規ジョブトレ先の開拓

先に述べましたように、交通路の利便性、そしてジョブトレに上述の機能を持たせようとするジョブトレ先はまだ不足していると感じています。サポステ開設当初より中小企業家同友会様にはジョブトレ先のお世話をさせていただいております。このご縁は大切にしつつ、更に次の3ルートを中心にジョブトレ先を開拓していきたいと考えております。なお、ジョブトレの業種は多岐にわたることが望ましいと考えます。特に田園型政令市を標榜する新潟市においては、農業関連のジョブトレ先の新規開拓も精力的に目指します。

ア 行政ルート

先日某会議で、新潟市生涯学習課から市内の図書館をジョブトレ先にしたらどうかというご意見をいただきました。誠にありがたいお話で、図書館に限らず、新潟市（県）の出先でジョブトレが可能な施設はたくさんあると承知しております。手順を踏んで、ジョブトレ先になっていただくようお願いしていく所存です。

イ 大規模チェーン店ルート

新潟市内外に多くの店舗を持つスーパーやドラッグストア等に出向き、ジョブトレ意義と意図をご理解いただいて一気に店舗数を増やせればと考えております。

ウ 特別支援学校の訓練（プレジョブ）受け入れ企業ルート

高等特別支援学校様のご尽力で市内にはプレジョブ受け入れ企業が多く存在します。高等特別支援学校様のご指導を受けつつ、これらの企業にジョブトレを引き受けていただくべく努力していきたいと存じます

6. 卒業生ステップアップ支援事業

卒業生の集い（仮）、キャリアアップ相談、新社会人マナー講座、卒業後現状確認

平成26年度新規事業としてサポステ卒業生に対して、キャリア・コンサルティング等を実施して、その職場での定着を支援するとともに、キャリアアップを図ることができる者に対しては、本格的な知識・スキルを取得するための中長期的なキャリア形成を支援するなど、ステップアップのための相談を実施します。

1) キャリアコンサルタントによるステップアップ相談

ア 職場定着支援

イ 非正規雇用から正規雇用への相談支援や転職のための相談

ウ キャリア形成に資する資格取得等技能向上に関する相談支援

2) サポステ卒業生に対する本事業の周知

3) サポステ卒業生の就労状況の把握